



何歳（いくつ）の頃に戻りたいのか？

校長 尾崎 淳一

年末が近付くにつれて、2025年を振り返る話題が多くなってきました。先日も何気なくテレビを観ていると、「〇〇歌謡祭」のタイトルで、2025年に活躍した歌手やグループが次々と素敵な歌を披露していました。よく知っている歌もあれば、聴き覚えはある歌、「初めて聴くけど売っていたの？」と思うような未知の歌もありました。もちろん、私が知らないだけで、世間ではミリオンセラーなのでしょう。

すると突然、テレビ画面の向こうの女性グループが、私の目をまっすぐに見つめて尋ねてきたのです。「自分が何歳の頃に戻りたいか？」と。竜北生の皆さんの軽く3～4倍は生きている私ですので、人生を振り返るにも時間がかかります。私なりに、いつの時代も楽しく過ごしてきたので、「自分が何歳の頃に戻りたいか？」と突然言われても、すぐに答えが出せません。すると、驚いたことに再び尋ねられました。「本当にあの頃、そんなに楽しかったか？」と。そして、私の答を待つことなく、「きっと特別、楽しくはなかっただろう！」と、彼女たちは私に言うのです。なるほど、思い出は美しいものかも知れません。「ヤングな学生時代に戻りたい」「フレッシュさ満点の新任教師の頃に戻りたい」「自由気ままな独身時代に戻りたい」と遠い過去を懐かしく思っても、本当に戻れる訳ではないし、忘れてしまったけれど、それぞれの時代に苦しいことや辛いこともあったのでしょうね。彼女たちのおっしゃるとおりです。

私の人生は、とっくに折り返し地点を過ぎました。教員生活も、いつの間にか4年を残すのみです。8月にソフトテニスで痛めた右肩は治らないし、血圧は高くなったし、ウェイトも順調に増加しています。楽しいことよりも、辛いことや悲しいことが目立つようになってきた今日この頃です。しかし、私には、過去を振り返っている時間も余裕も残されていないので、明るい未来を夢見ることに決めました。せっかく、テレビ画面の向こうの彼女たちが、私だけに教えてくれたのですから。「夢を見るなら、先の未来がいい」と！



さて、これまたテレビ番組の話ですが、あるニュースで松本城の「プロジェクションマッピング」が話題になっていました。今週末から2月中旬までの限定で、夜間に実施するそうです。ふらっと出掛けるには距離があるので、実際に楽しむことはできませんが、ニュースでは幻想的な映像が映し出され、興味を惹かれました。

左は、朝7時前に撮影した写真です。体育館の壁に橙色の文字のようなものが浮かび上がっています。もちろん、「竜北プロジェクションマッピング」ではなく、朝日が複雑に反射して、体育館に映ったものです。自然の「プロジェクションマッピング」も素敵ですね。

今年の夏の暑さは猛烈で、もう冬は来ないのかと思っていました。しかし、冬は予定通りに訪れ、寒さに弱い私は毎日震えて過ごしています。猛暑すら懐かしく思えてしまいますね。しかし、「夢を見るなら、先の未来がいい」ので、まずは暖かな春の訪れを夢見ることにします。さあ、冬の寒さに負けず、未来の夢に向かって、「竜北生、Go!!」

SNS等で、匿名の投稿が問題になっています。学校にも名乗らない、たぶん外部の方から、強い口調で一方的なご意見をいただくことがあります。学校は情報保護の観点から、基本的に匿名電話への対応はできません。相手が分からないのは、とても怖いものです。